

② エリアの特性と河川の現況

1) 石川下流エリア (石川下流部)

[エリア特性]

石川下流エリアの下流に向かって左岸側の地域(市街地ゾーン-A)は、平安時代から京と高野山を結ぶ東高野街道が川と併走し、沿道地域も発展しました。江戸時代には寺内町で造り酒屋などが栄え、大阪と往来する剣先船による水運も活躍しました。現在も国道170号と近鉄長野線が整備され、沿線は市街化が進展し、まちの骨格を形成しています。一方、右岸側の地域(里地ゾーン-A,B)は、聖徳太子や小野妹子の墓があるなど、古来より神聖な場所として位置付けられていたことが同われ、飛鳥時代には奈良へつながる竹内街道が整備され、「近つ飛鳥」と呼ばれるなど、歴史・文化資源が集中する地域であり、また、多くの支川と水路網を生かした水田等の農地が広がります。石川下流部は、特性の異なる地域をつなぐ役割をもった河川として位置付けられます。

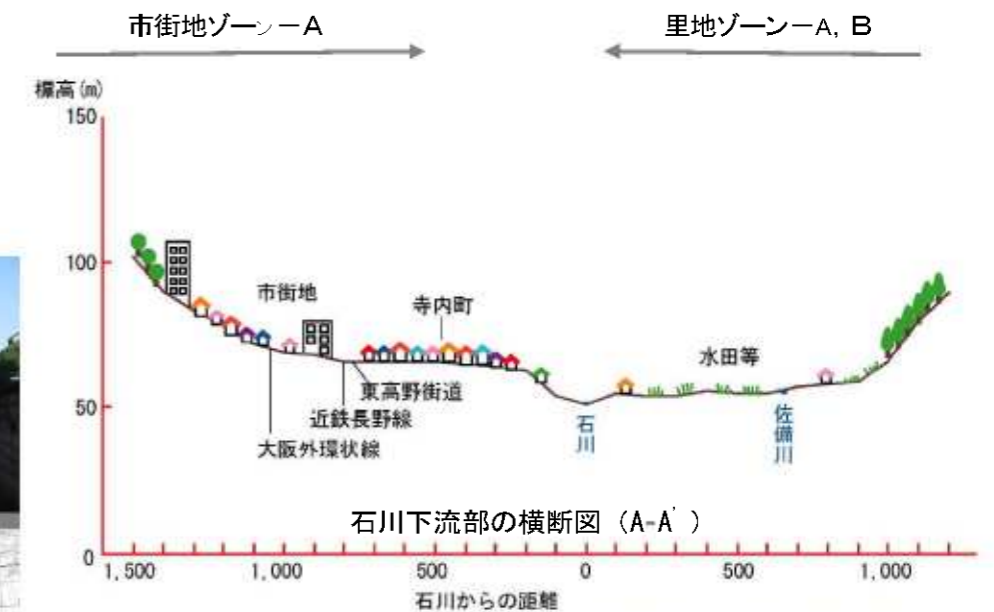
[河川の現状]

■ 石川下流部

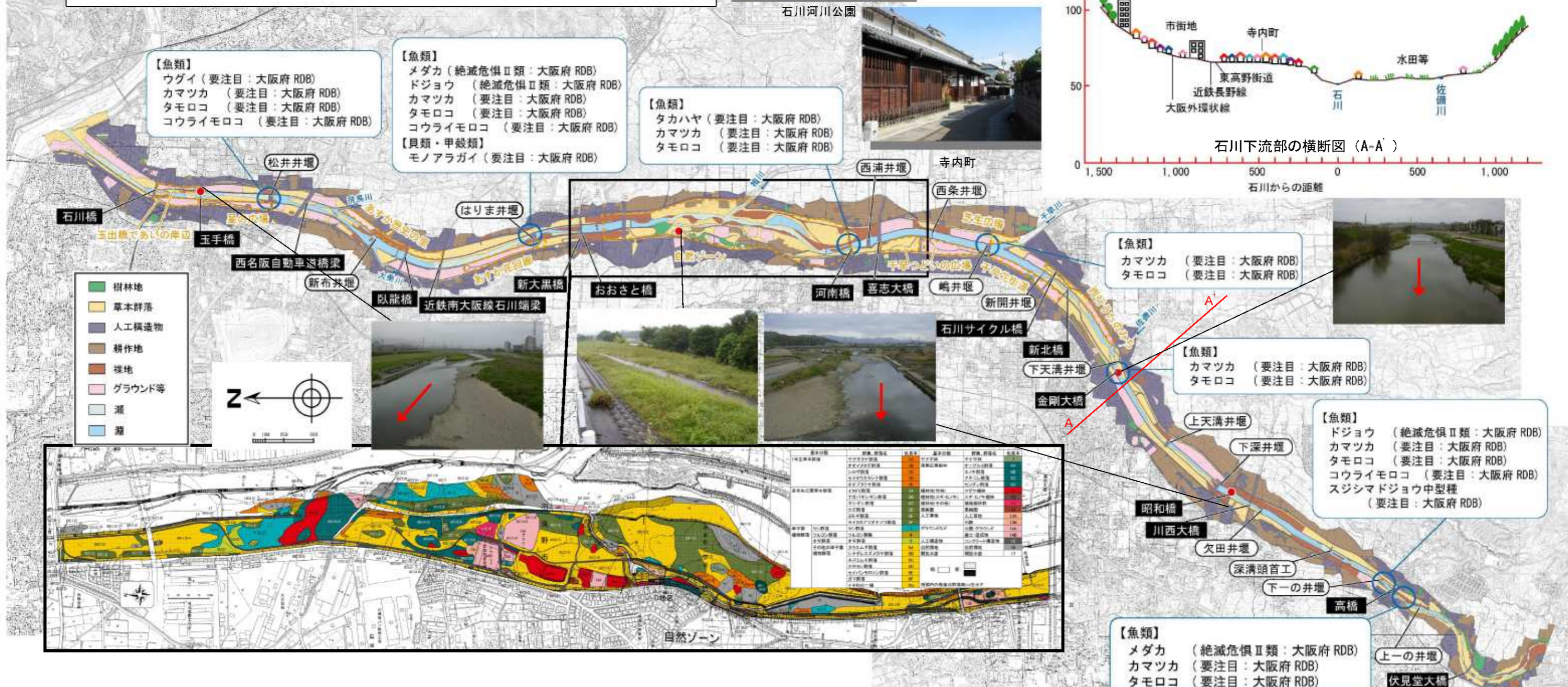
- ・河道：幅約100~400m、河床勾配1/300~1/500、両岸に堤防・高水敷
- ・水域：湛水域と砂礫の河原が見られる瀬が交互する
- ・動物：メダカ、タモロコ、ドジョウ、コウライモロコ、モノアラガイ など
- ・植物：河原、高水敷には草本群落ที่ 広がり、梅川合流点付近ではエノキ群落、マダケ植林等の樹林地がみられる
- ・利用：石川河川公園、サイクルライン
- ・活動：ワークショップ、アドプト・リバープログラム、河川敷花いっぱい運動、クリーン大作戦 など



石川河川公園



石川下流部の横断面図 (A-A')



石川下流部平面図

2) 石川中流エリア (石川中流部)

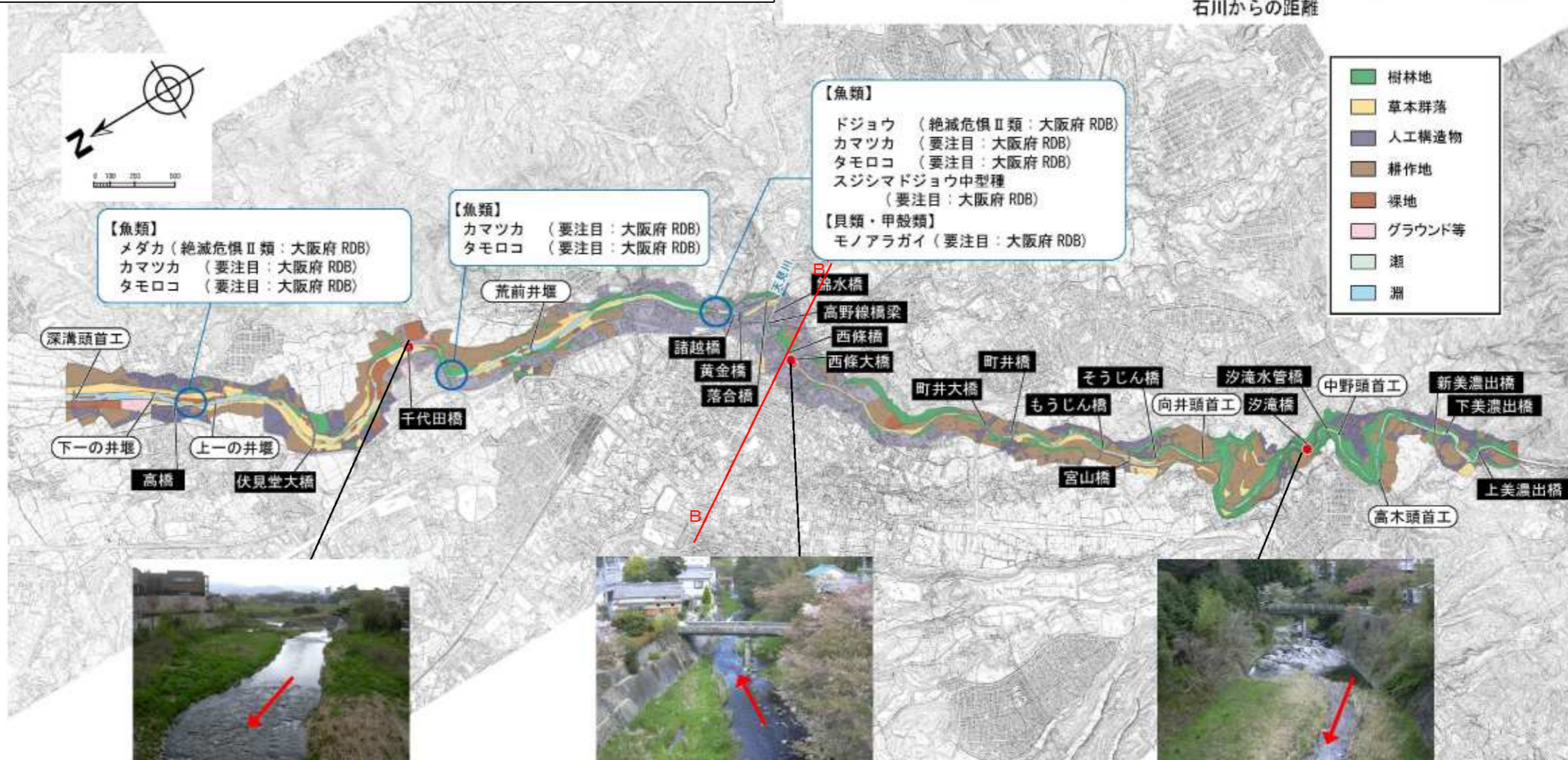
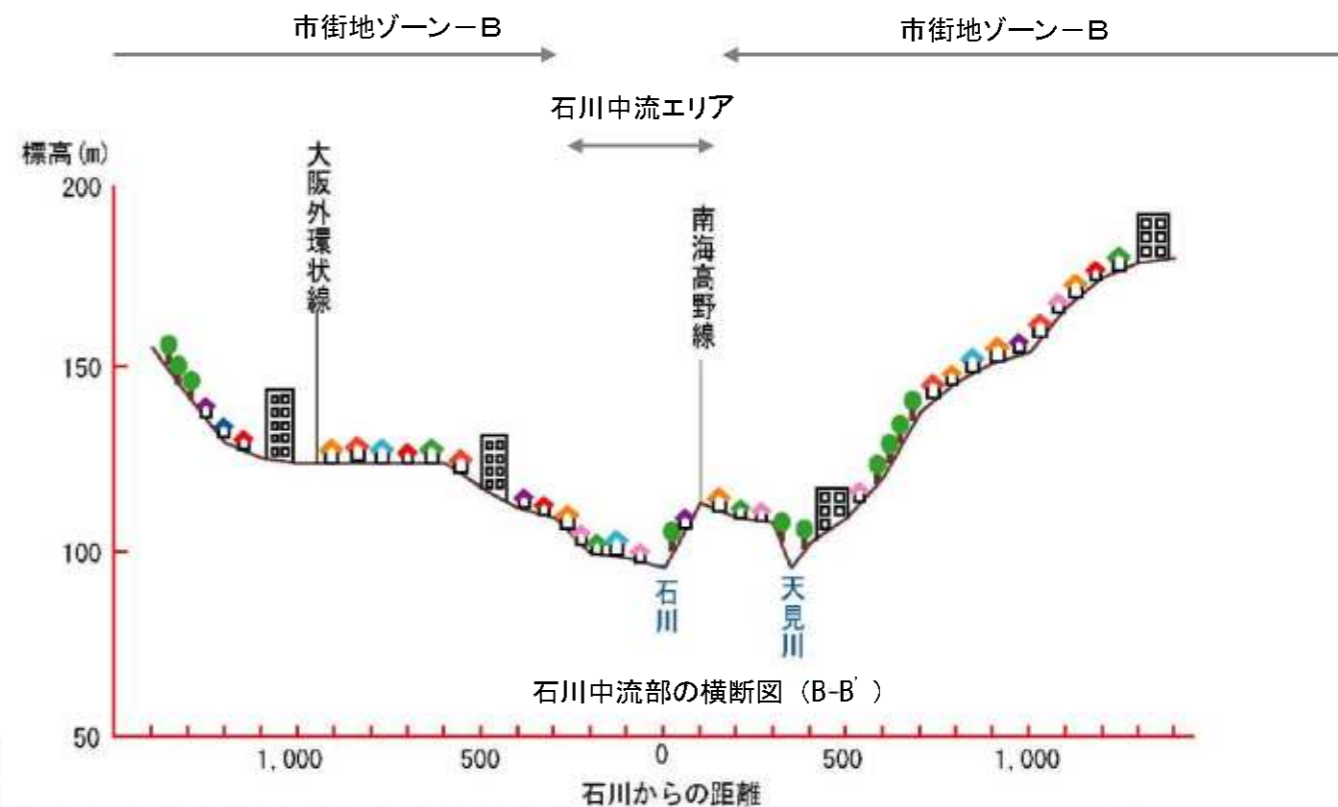
[エリア特性]

石川中流エリアの周辺地域(市街地ゾーン-B)は、かつては山林や農地が大部分を占めていましたが、近代になって大規模な開発によって急速に市街化が進み、現在は多くの人々の日常生活の場となっています。河川は、蛇行する区間が多く、河岸に樹林が見られ、周囲の山地とともに、緑豊かな景観を形成しています。

[河川の現状]

■石川中流部

- ・河道：幅約30~200m、河床勾配1/250~1/300程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・動物：タモロコ、ドジョウ、モノアラガイ、カスミサンショウウオ など
- ・植物：河原に草本群落が続く、河岸の一部に樹林がみられる
- ・活動：アドプト・リバープログラム



石川中流部平面図

3) 石川上流エリア (石川上流部)

[エリア特性]

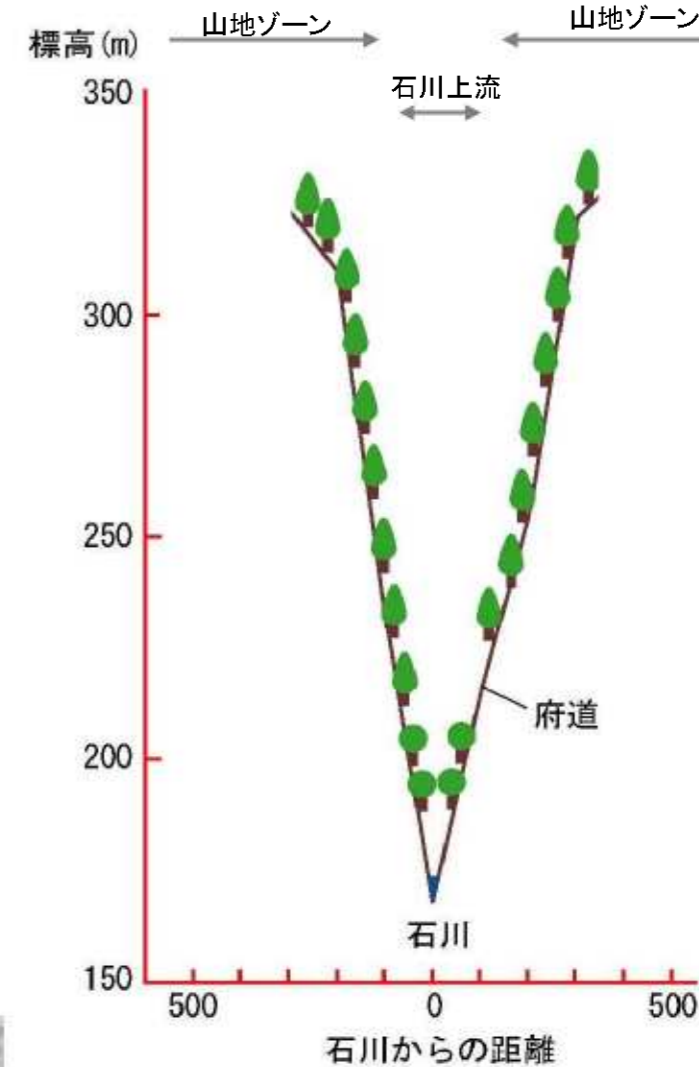
石川上流エリアの周辺地域 (山地ゾーン) は、樹林が広がり、「金剛生駒紀泉国定公園」に含まれる良好な自然環境を有し、「一徳坊山」、「岩湧山」などの山々や「光滝」などの景観資源がみられます。河川は周辺の山地と一体となって良好な自然環境を呈し、「滝畑ダムレイクパーク」などの水辺利用がみられます。

[河川の現状]

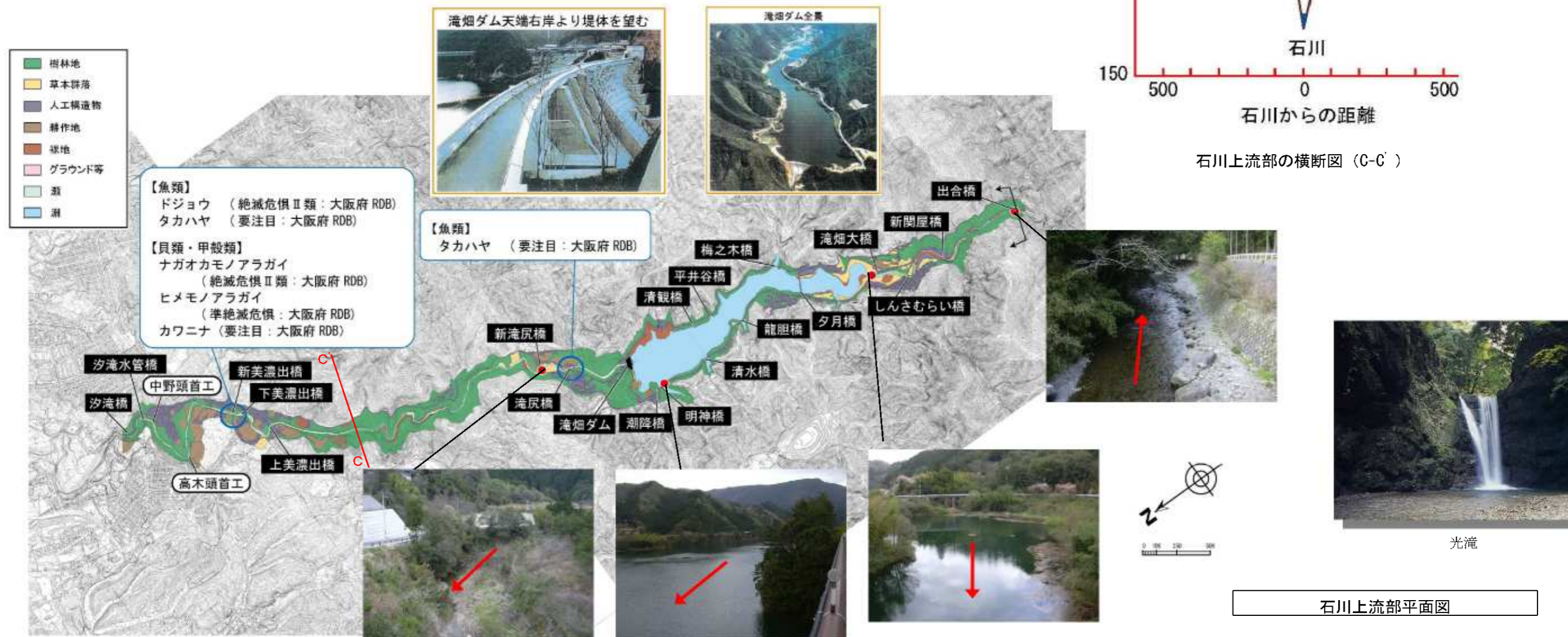
■石川中流部

- ・河道：幅約 15m~30m、河床勾配 1/65 程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・動物：タカハヤ、ドジョウ、カワニナ、ゲンジボタル など
- ・植物：大部分は山付き区間であり樹林が連続
- ・利用：滝畑ダムレイクパーク など
- ・その他：滝畑ダム-湛水延長約 2.4 km、湛水面積 52.3ha

3. 河川環境の現状と課題 (1) 河川環境の現状
②エリアの特性と河川の現況



石川上流部の横断面図 (C-C')



石川上流部平面図

4) 大乘川エリア (大乘川)

[エリア特性]

大乘川エリア(市街地ゾーン-A)は、平安時代から京と高野山を結ぶ東高野街道が川と併走し、沿道地域も発展しました。江戸時代には寺内町で造り酒屋などが栄え、大阪と往来する剣先船による水運も活躍しました。街道筋には国道170号と近鉄長野線が整備され、沿線はブロック内でも早い時期から市街化が進展し、多くの人々の日常生活の場となっています。河川は、市街地において貴重なオープンスペースであり、身近な自然の場といえます。

[河川の現状]

■石川中流部

- ・河道：幅約20m、河床勾配1/170~1/520程度、直線的、護岸が連続
- ・水域：概ね平瀬
- ・動物：タモロコ、ドジョウ など
- ・植物：河原にセイバンモロコシ群落、オオイヌタデ-オオクサキビ群落、マコモ群落といった草本群落、川沿いの所々に植栽がみられる

1 沈水植物群落	15 畑
2 浮葉植物群落	16 水田
3 1年生草本群落	17 人工草地
4 多年生広葉草本群落	18 グラウンド等
5 単子葉草本群落(3群)	19 人工構造物
6 単子葉草本群落(7A群)	20 自然裸地
7 単子葉草本群落(その他)	早瀬
8 落葉広葉樹林	平瀬
9 常緑広葉樹林	瀬
10 その他の低木林	
11 植林地(竹林)	
12 植林地(スギ・ヒノキ)	
13 植林地(その他)	
14 果樹園	



5) 天見川下流エリア (天見川下流部, 加賀田川, 石見川)

[エリア特性]

天見川下流エリア(市街地ゾーン-B)は、かつては山林や農地が大部分を占めていましたが、近代になって大規模な開発によって急速に市街化が進み、現在は多くの人々の日常生活の場となっています。河川は、蛇行する区間が多く、河岸に樹林が見られ、周囲の山地とともに、緑豊かな景観を形成しています。

[河川の現状]

■天見川下流部

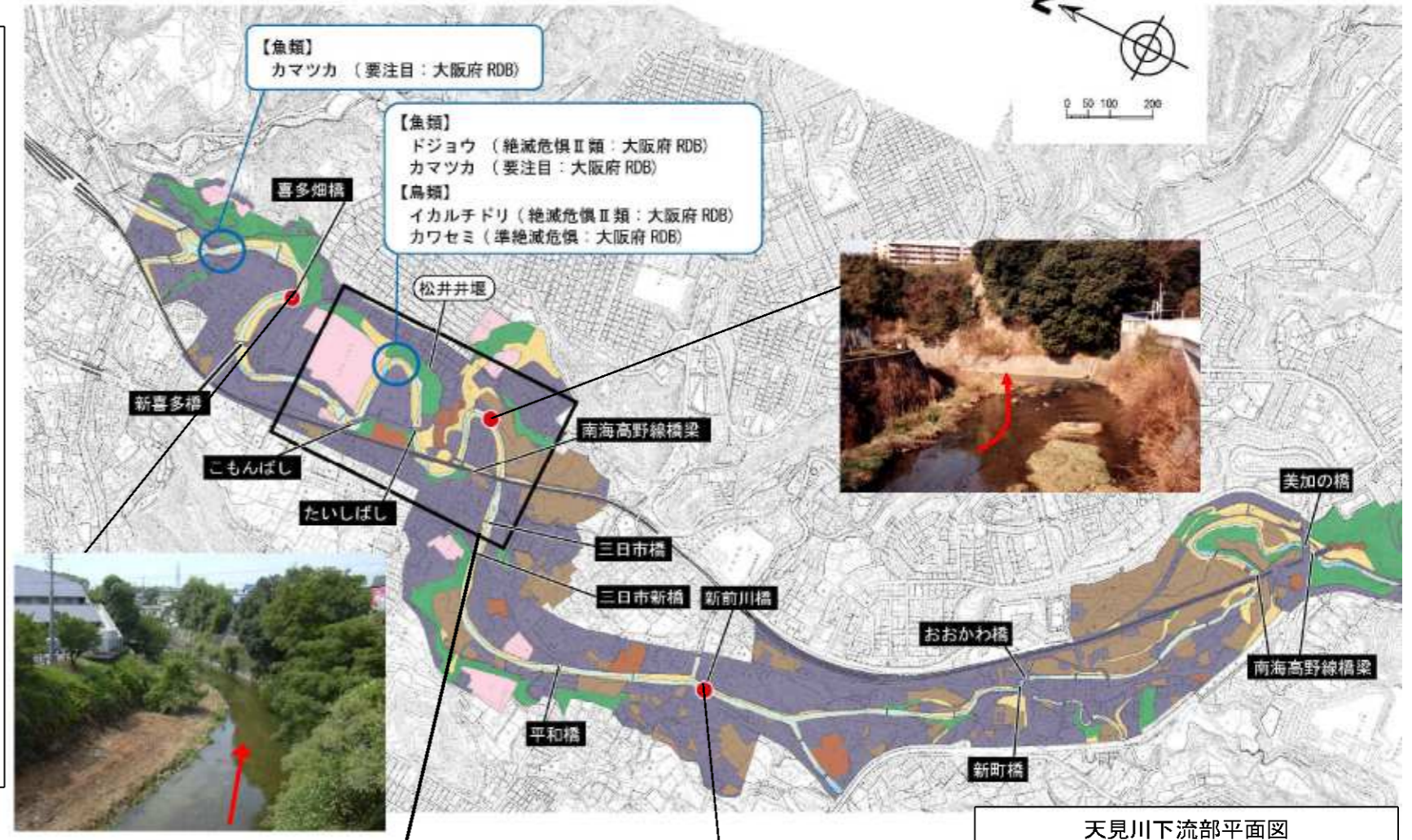
- ・河道：幅約20m、河床勾配1/200程度、蛇行、護岸が連続
- ・水域：概ね平瀬
- ・動物：カマツカ、ドジョウ、モノアラガイ など
- ・植物：河原にツルヨシ群落、オオバクサ群落、カナムグラ群落といった草本群落、河岸の所々にハチク林がみられる

■加賀田川

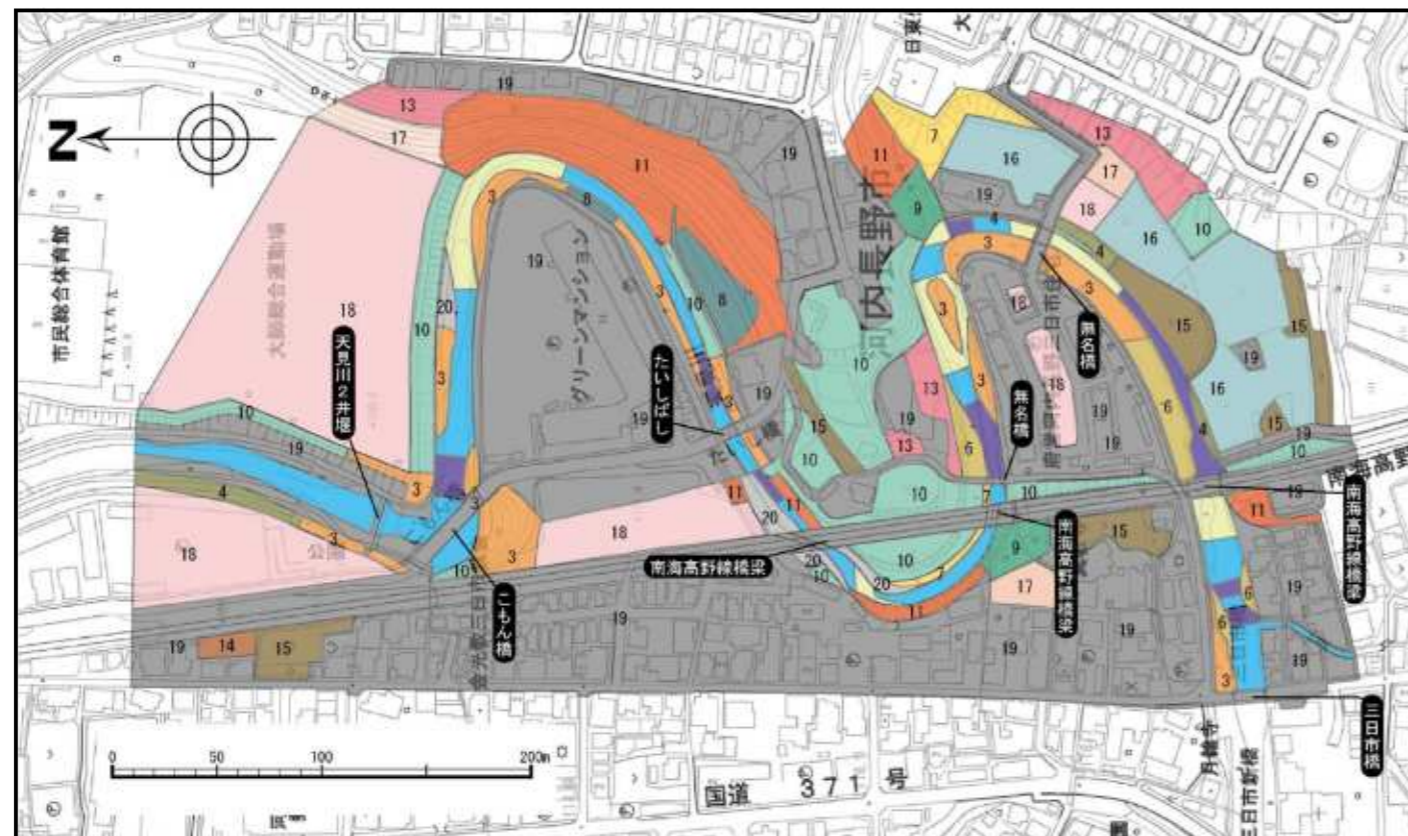
- ・河道：幅約20m、河床勾配1/65程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・植物：河原に草本群落、河岸の一部に樹林がみられる

■石見川

- ・河道：幅約10m、河床勾配1/60程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・植物：河原に草本群落、河岸には樹林が多くみられる



天見川下流部平面図

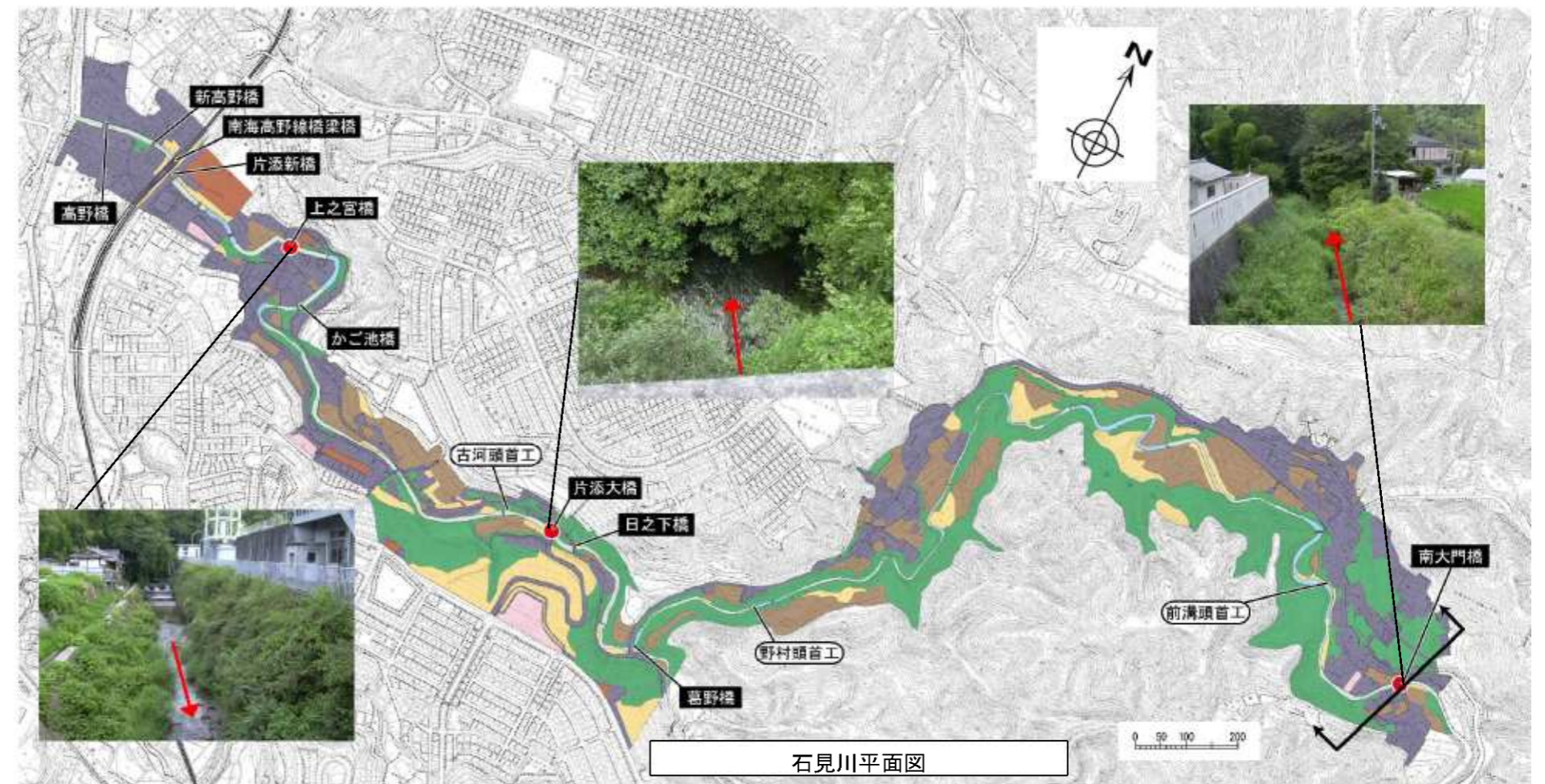
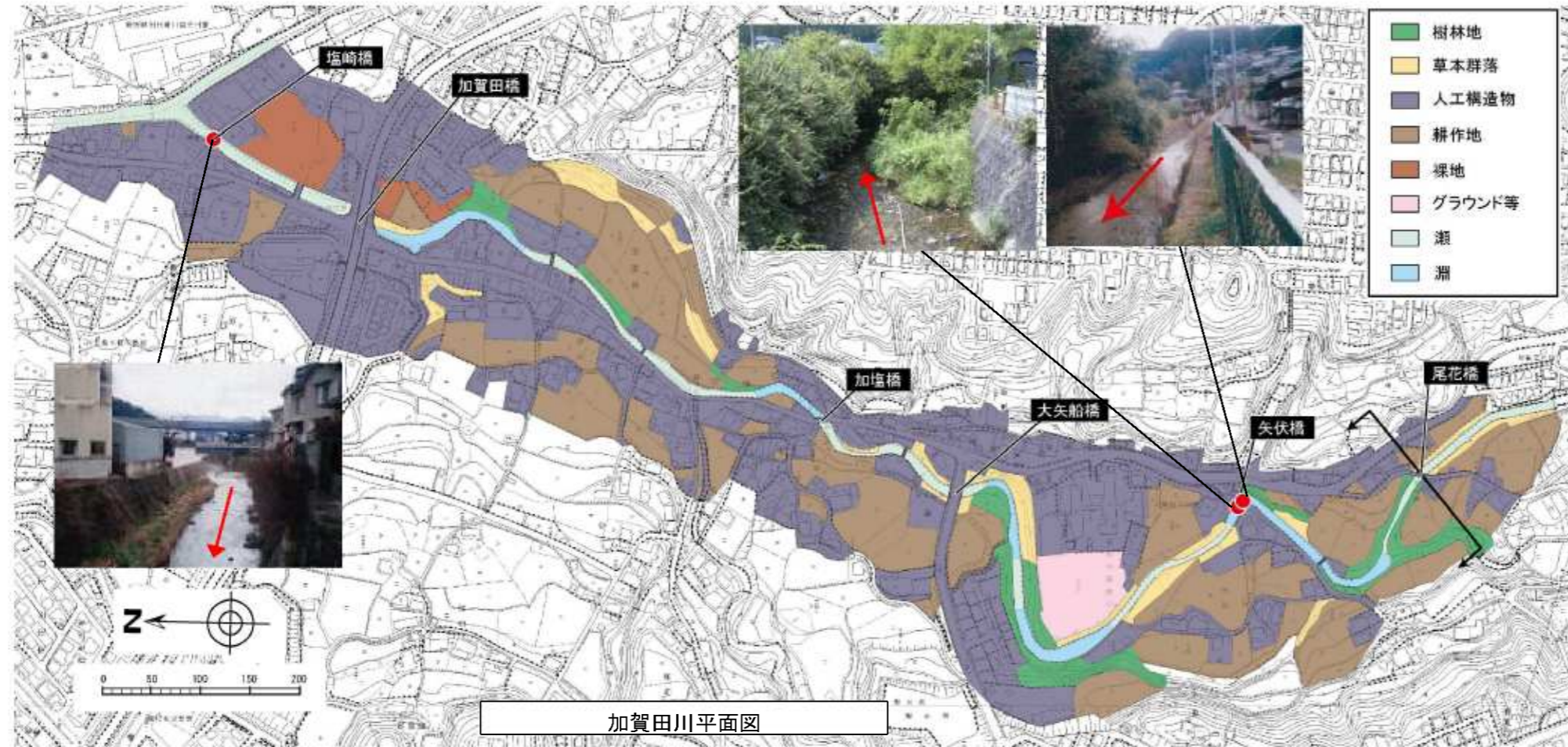


環境情報図凡例

1 沈水植物群落	15 畑
2 浮葉植物群落	16 水田
3 1年生草本群落	17 人工草地
4 多年生広葉草本群落	18 グラウンド等
5 単子葉草本群落(シ群落)	19 人工構造物
6 単子葉草本群落(ツシ群落)	20 自然裸地
7 単子葉草本群落(その他)	早瀬
8 落葉広葉樹林	平瀬
9 常緑広葉樹林	淵
10 その他の低木林	
11 植林地(竹林)	
12 植林地(杉・ヒノ)	
13 植林地(その他)	
14 果樹園	

樹林地
草本群落
人工構造物
耕作地
裸地
グラウンド等
瀬
淵





6) 飛鳥川エリア (飛鳥川, 梅川, 太井川)

[エリア特性]

飛鳥川エリア (里地ゾーン-A) は、宅地や農地が広がり、所々に樹林が見られます。聖徳太子や小野妹子の墓があるなど、古来より神聖な場所として位置付けられていたことが伺われ、飛鳥時代には奈良へつながる竹内街道が整備され、「近つ飛鳥」と呼ばれるなど、歴史・文化の色濃い地域です。現在も多くの歴史・文化資源があり、「近つ飛鳥博物館」、「葉室歴史公園」などの公共・レクリエーション施設が整備されています。多くの河川と水路網を生かした水田等の農地が広がり、河川は、勾配が比較的緩やかで、直線的な河道もみられ、農地や樹林と一体となって里地の自然環境を形成しています。

[河川の現状]

■飛鳥川

- ・河道：幅 20~30m、河床勾配 1/200~1/280 程度、環境配慮型護岸あり
- ・水域：概ね平瀬
- ・動物：メダカ、タモロコ、ドジョウ、イソシギ など
- ・植物：河原に草本群落、河岸の一部に樹林がみられる

■梅川

- ・河道：幅約 20~30m、河床勾配 1/350~1/400 程度
- ・水域：概ね平瀬
- ・動物：カマツカ、メダカ、タモロコ、ドジョウ など
- ・植物：河原にツルヨシ群落、セイタカヨシ群落、セイバンモロコシ群落といった草本群落がみられる

■太井川

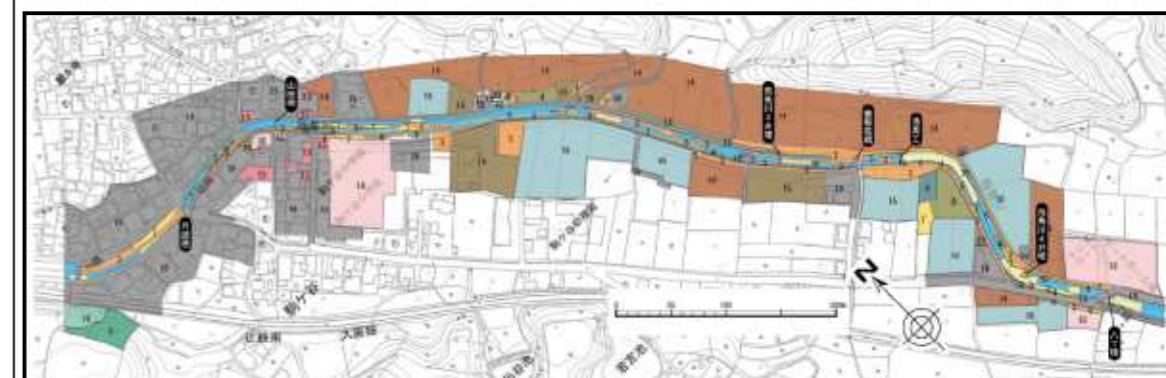
- ・河道：幅約 20m、河床勾配 1/150~1/200 程度
- ・水域：概ね平瀬
- ・動物：メダカ、タモロコ、ドジョウ、モノアラガイ、カワセミ など
- ・植物：河原に草本群落、河岸の一部にマダケ林がみられる



聖徳太子の墓



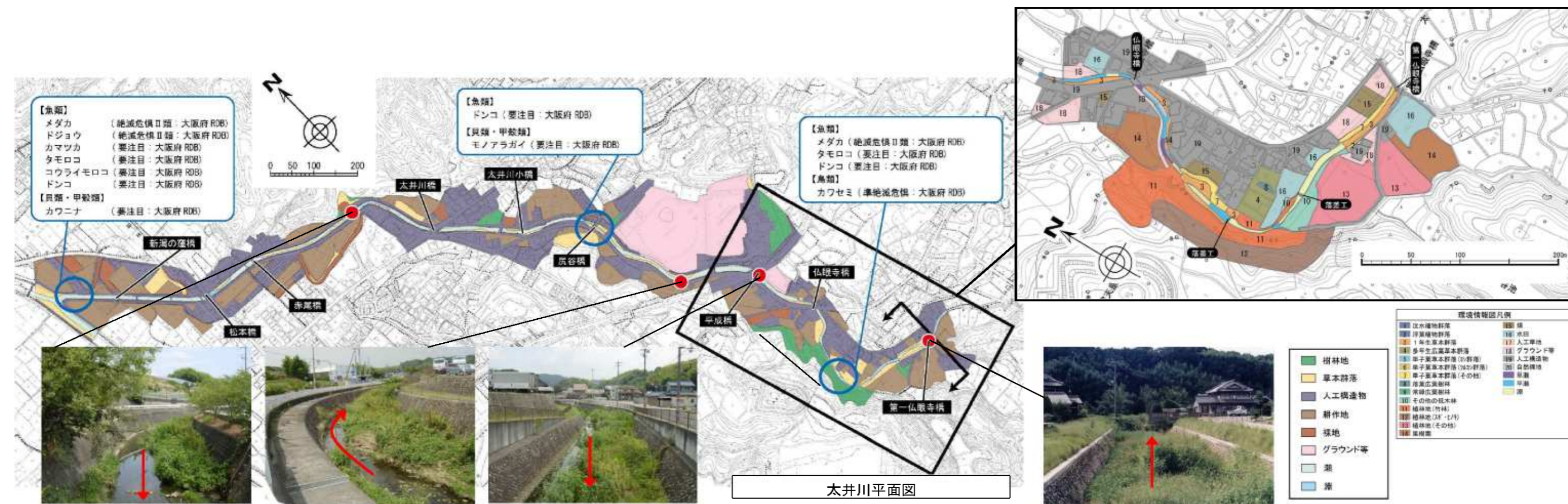
葉室歴史公園



① 常緑樹林	⑩ 田
② 落葉樹林	⑪ 水田
③ 1年生草本群落	⑫ 人工草地
④ 多年生広葉草本群落	⑬ グラウンド等
⑤ 単子葉草本群落 (3/4) 群落	⑭ 人工構造物
⑥ 単子葉草本群落 (3/4) 群落	⑮ 自然裸地
⑦ 単子葉草本群落 (その他)	⑯ 平瀬
⑧ 常緑広葉樹林	⑰ 瀬
⑨ その他の樹林	⑱ 淵
⑩ 樹林地 (竹林)	
⑪ 樹林地 (杉・ヒノ)	
⑫ 樹林地 (その他)	
⑬ 果樹園	



飛鳥川平面図



7) 千早川下流・佐備川エリア (千早川下流部, 佐備川, 宇奈田川, 水越川下流部)

[エリア特性]

千早川下流・佐備川エリア (里地ゾーン-B) は、川沿いを中心に宅地や農地が広がり、周囲は樹林に囲まれています。河川は、瀬・淵が見られ、川沿いの樹林も多く、棚田に代表される農地と一体となって里地の自然環境を形成しています。また、沿川には体験農園などのある「サバーファーム」も位置しています。

[河川の現状]

■千早川下流部

- ・河道：幅約 10~35m、河床勾配 1/25~1/110 程度
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・動物：タモロコ、ドジョウ、モノアラガイ、カワニナ、オオサンショウウオ (1981 調査) など
- ・植物：河原に草本群落、河岸の一部に樹林がみられる

■佐備川

- ・河道：幅約 20~30m、河床勾配 1/200~1/300 程度
- ・水域：概ね平瀬
- ・動物：タモロコ、ドジョウ など
- ・植物：河原にセイタカヨシ群落、オオブタクサ群落といった草本群落がみられる

■宇奈田川

- ・河道：幅約 10m、河床勾配 1/750 程度、護岸が連続
- ・水域：概ね平瀬
- ・植物：河原にセイタカヨシ群落、オオブタクサ群落といった草本群落がみられる

■水越川下流部

- ・河道：河道 幅約 10m、河床勾配 1/20 程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・動物：タカハヤ など、
- ・植物：河原に草本群落、河岸の一部に樹林がみられる

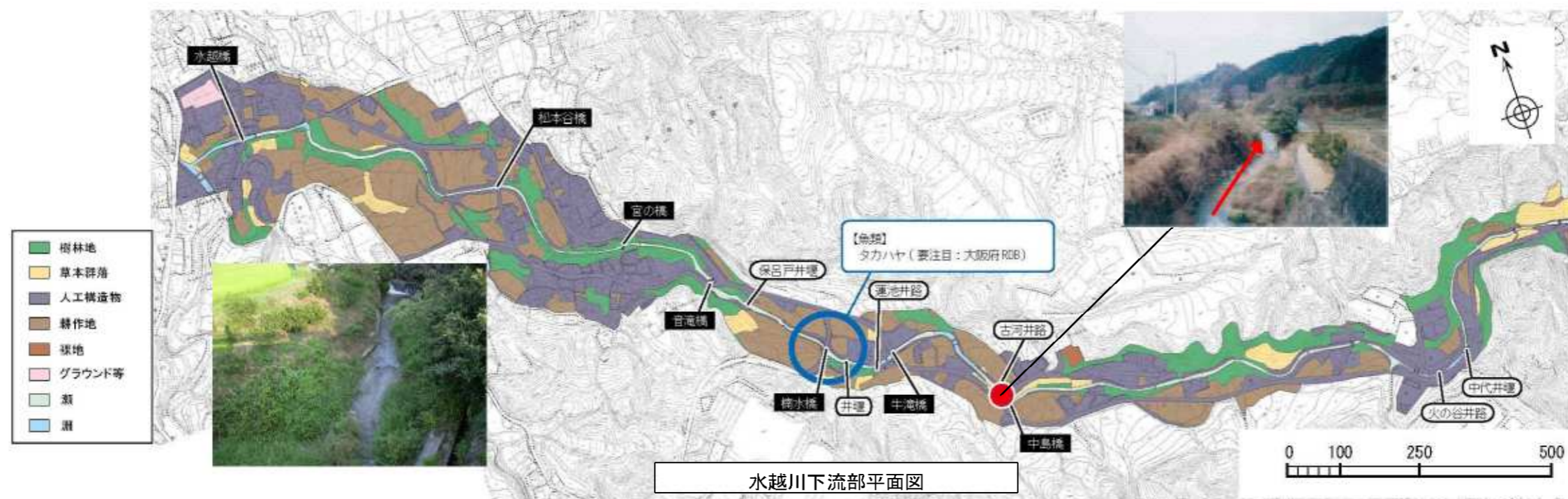
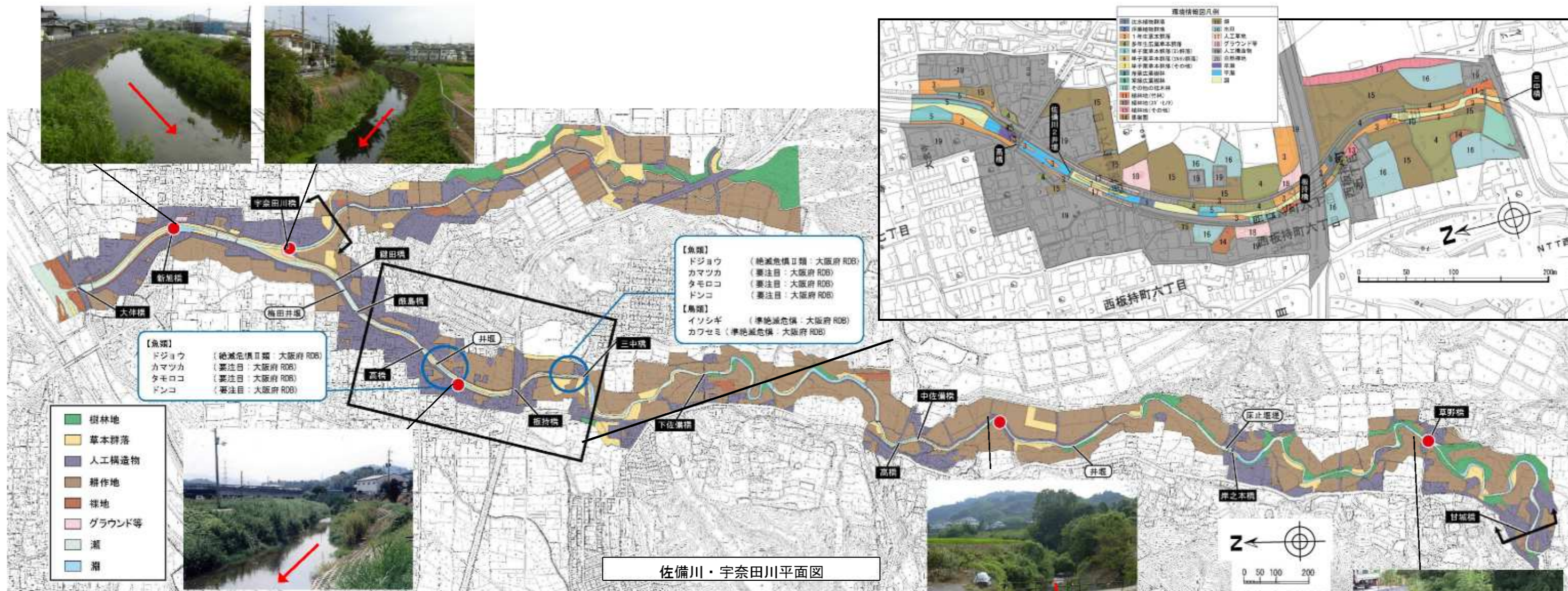


棚田 (下赤坂)



サバーファーム





8) 千早川上流・天見川上流エリア (千早川上流部, 天見川上流部, 水越川上流部)

[エリア特性]

千早川上流・天見川上流エリア (山地ゾーン) は、樹林が広がり、「金剛生駒紀泉国定公園」に含まれる良好な自然環境を有し、「二上山」、「金剛山」などの山々や「赤滝」などの景観資源がみられます。また、「千早城跡」など、楠木正成にまつわる歴史資源があります。河川は、勾配が急で瀬・淵が連続し、兩岸に樹林が迫る溪流の様相となり、周辺の山地と一体となって良好な自然環境を呈しています。

[河川の現状]

■千早川上流部

- ・河道：幅約 10m、河床勾配 1/25 程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・動物：カワニナ など
- ・植物：モチツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林が広がる山地を流れる

■天見川上流部

- ・河道：幅約 10m、河床勾配 1/80 程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・動物：アブラハヤ、カワニナ、ゲンジボタル など
- ・植物：モチツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林が広がる山地を流れる

■水越川上流部

- ・河道：幅約 10m、河床勾配 1/20 程度、蛇行
- ・水域：瀬、淵がみられる
- ・動物：タカハヤ、カワニナ など
- ・植物：モチツツジ-アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林が広がる山地を流れる



二上山



千早川上流部平面図



天見川上流部平面図



水越川上流部平面図

(2) 河川環境の課題

石川ブロックの河川では、良好な自然環境の保全、流域の豊富な歴史・文化資源との連携、農業と自然の共生といったことを、ゾーンの特性に配慮しながらエリアの状況に応じて取り組んでいく必要があります。

「石川エリア」においては、特性の異なる地域をつなぐ役割を果たす空間として、上下流の地域をつなぎ農地や里山と一体となった自然環境としての動植物の生息・生育環境の保全、流域の豊富な歴史・文化資源と身近な自然にふれる場としての活用を両立させていく必要があります。

「市街地ゾーン」を流れる河川では、数少ない身近な自然環境として、動植物の生息・生育環境の保全が必要です。特に「市街地ゾーン-A」を流れる河川では、流域の豊富な歴史・文化資源と身近な自然にふれる場としての活用、「市街地ゾーン-B」を流れる河川では、川沿いの樹林とともに、まちの景観に潤いを与える構成要素としての保全、身近な自然の場としての利用も必要です。

「里地ゾーン」を流れる河川では、農地や里山と一体となった自然環境として、動植物の生息・生育環境の保全が必要です。特に「里地ゾーン-A」を流れる河川では、流域の豊富な歴史・文化資源と身近な自然にふれる場としての活用、「里地ゾーン-B」を流れる河川では、農業と自然の共生にふれる場としての活用も進めていく必要があります。

「山地ゾーン」を流れる河川では、周辺の樹林と一体となった動植物の生息・生育環境の保全が必要です。また、流域内外の人々が訪れ、豊かな自然を体験する場としての利用も必要です。

【エリア別の河川環境の課題】

